



Cisco HyperFlex ソフトウェア コンポーネントのアップグレード

- [Cisco UCS Manager を使用した Cisco UCS ファームウェアのアップグレード \(1 ページ\)](#)
- [Cisco HX Data Platform のアップグレード \(4 ページ\)](#)
- [Cisco UCS ファームウェアのアップグレード \(6 ページ\)](#)
- [Cisco HX Data Platform と Cisco UCS ファームウェアを組み合わせたアップグレード \(8 ページ\)](#)
- [ESXi のアップグレード \(10 ページ\)](#)
- [コンピューティング専用ノードのアップグレードに関する考慮事項 \(12 ページ\)](#)

Cisco UCS Manager を使用した Cisco UCS ファームウェアのアップグレード

UCS インフラストラクチャ ファームウェアには、UCS Manager、スイッチ ファームウェア、ブレードシャーシの IO モジュールファームウェア、およびラックサーバの FEX ファームウェアが含まれます。UCS インフラストラクチャファームウェアは HyperFlex のワークロードを中断することなくアップグレードできます。これは、UCS ファブリック インターコネクットのローリングアップグレードを実行することで実現できます。HX ノードは、UCS ファブリック インターコネク트가リブートしてファームウェアをアップグレードする際にすべてのイーサネットトラフィックをフェールオーバーするように設定されます。



- (注) 先に進む前に、`hx-storage-data` および `vMotion` のアップストリーム スイッチがジャンボ フレーム用に設定されていることを確認してください。このように設定しておかないと、HyperFlex クラスタがオフラインになり、すべてのデータストアが ESXi ホストからマウント解除されます。

ステップ 1 UCS Manager GUI を開きます。

- ステップ 2** [Equipment] > [Firmware Management] > [Firmware auto-install] の順に選択します。
- ステップ 3** [インフラストラクチャ ファームウェアのインストール (Install Infrastructure Firmware)] をクリックします。
- ステップ 4** 該当する UCS インフラストラクチャバージョンを選択します。それぞれのユースケースに該当するバージョンを特定するには、互換性マトリックスを参照してください。[Next] をクリックします。
- 前提条件ダイアログボックスがポップアップで表示されます。警告のリストが表示されます。次に進む前に、まずそれらを修正してください。
1. Cisco UCS Manager アップグレードの検証が失敗します。
この場合、アップグレードプロセスを停止します。アップグレードの検証エラーの原因を特定します。是正措置を取り、アップグレードプロセスを再開します。
 2. Cisco UCS Manager GUI を切断します。
これは、UCS Manager のアップグレード時に UCS Manager を停止すると予想されるため、新しいバージョンで再起動します。UCS Manager がオンラインに戻るまで待機します。次のステップを完了するために UCS Manager に再びログインします。
- ユーザの環境にとって警告が重大でない場合は、[Ignore All] チェックボックスをオンにすることができます。
- ステップ 5** [Upgrade Now] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [Finish] をクリックします。
- ステップ 7** IOM がアップグレードされるまで待機します (ブレード シャーシが存在する場合)。
1. [Equipment] > [Installed Firmware] の順に選択し、各シャーシを展開してから、IO モジュールの [Update Status] を確認します。
 2. アップグレード中に、IO モジュールの [Update Status] が [Upgrading] になります。
 3. IOM のアップグレードが完了すると、IO モジュールの [Update Status] が [Ready] に設定されます。
- ステップ 8** 下位の FI がアクティブ化されるのを待機します。
1. [Equipment] > [Installed Firmware] > [Fabric Interconnects] の順に選択します。
 2. カーネルおよびスイッチのイメージの [Activate Status] を確認します。アップグレード中に、[Activate Status] が [Activating] に設定されます。
- ステップ 9** FI のリブート時に、すべての HX トラフィックがプライマリ FI に転送されます (ESXi の vSwitch のフェールオーバー ポリシーに基づく)。これにより短いトラフィックの中断が発生します。ストレージの IO 障害は発生しません。
- ステップ 10** 下位の FI が UCS クラスタをリブートしており UCS クラスタに接続していることを確認します。
1. [Equipment] > [Installed Firmware] > [Fabric Interconnects] の順に選択します。
 2. アクティブ化の後、FI の [Activate Status] が [Ready] に設定されます。
 3. FI の [Overall Status] が [operable] であることを確認します。

4. FI のカーネルおよびスイッチのバージョンが、目的となる更新済みのバージョンと一致していることを確認します。
5. FI でエラーが発生していないことを確認します。
6. FI クラスタ メンバーシップが [Subordinate] であることを確認します。

ステップ 11 IOM アクティベーションが完了するまで待ちます。

1. **[Equipment] > [Blade Chassis] > [IO Module]** の順に選択します。
2. IO モジュールの **[Activate Status]** が **[Ready]** に変わるまで待機します。

ステップ 12 HX トラフィックが両方の FI に再ピンされるまで待機します。

UCS Manager の vNIC のエラーが解決されるまで待機します。エラーの解決とは、ESXi が ENIC ドライバをロードし、インターフェイスがアップしていることを示します。ESXi にフェールバックタイマーがあるため、ネットワーク インターフェイスがアップになると、トラフィックはただちに再ピンされます。ただし `Net.teampolicyupdelay` タイマーはデフォルトで非常に低い設定 (100ms) です。

ステップ 13 プライマリのファブリック インターコネクトをリブートする前に、HX クラスタがオンラインで正常であることを確認します。

1. vSphere Web クライアント ナビゲータから **[Summary]** タブにアクセスします。 **[ホーム (Home)] > [vCenter インベントリ リスト (vCenter Inventory Lists)] > [Cisco HyperFlex Systems] > [Cisco HX Data Platform] > [クラスタ (cluster)] > [サマリ (Summary)]** の順に選択します。

ステップ 14 UCS Manager GUI のツールバーから **[Pending Activities]** をクリックします。完了する前にユーザ確認が必要なタスクを表示する **[Fabric Interconnects]** タブをクリックします。

1. 即時展開する保留中の各アクティビティの **[Reboot Now]** のチェックボックスをオンにします。
2. **[OK]** をクリックします。Cisco UCS Manager はすぐにプライマリ FI をリブートします。これにより、下位 FI がプライマリになります (FI のフェールオーバー)。

ステップ 15 FI のリブート時に、すべての HX トラフィックが新たなプライマリ FI に転送されます。これにより短いトラフィックの中断が発生します。ただし、これによるストレージの IO 障害は発生しません。

ステップ 16 UCS Manager が接続解除されて、他の FI で再接続されるまで待機します。これは、プライマリ FI のリブートが原因で UCS Manager のフェールオーバーが発生するためです。

下位の FI がプライマリになっていることを確認します。

ステップ 17 下位の FI がプライマリになっていることを確認します。

FI クラスタ メンバーシップがプライマリであることを確認します。

ステップ 18 FI がアクティブ化されるのを待機します。

1. **[機器 (Equipment)] > [インストールされたファームウェア (Installed Firmware)] > [ファブリック インターコネクト (Fabric Interconnects)]** の順に選択します。
2. FI の **[Activate Status]** が **[Ready]** になるまで待機します。

3. FI の [全体のステータス (Overall Status)] が [操作可能 (operable)] になっていることを確認します。
4. FI でエラーが発生していないことを確認します。

ステップ 19 FI が UCS クラスタをリポートし、下位の FI として接続していることを確認します。

FI クラスタ メンバーシップが [Subordinate] であることを確認します。

ステップ 20 IOM アクティベーションが完了するまで待ちます。

- a) [Equipment] > [Blade Chassis] > [IO Module] の順に選択します。
- b) IP モジュールの [Activate Status] が [Ready] になるまで待機します。
- c) [FSM] タブでステータスをモニタできます。

(注) アップグレード中には UCS Manager への接続が失われます。これは、正常な動作です。

ステップ 21 HX トラフィックが両方の FI に再ピンされるまで待機します。

UCS Manager GUI で、すべてのサーバ vNIC のエラーが解決されるまで待機します。

ステップ 22 FI のリポート後に HX クラスタがオンラインで正常であることを確認します。

vSphere Web クライアントナビゲータから [Summary] タブにアクセスします。[ホーム (Home)] > [vCenter インベントリ リスト (vCenter Inventory Lists)] > [Cisco HyperFlex Systems] > [Cisco HX Data Platform] > [クラスタ (cluster)] > [サマリ (Summary)] の順に選択します。

Cisco HX Data Platform のアップグレード

HX Data Platform をアップグレードしても、HyperFlex クラスタで実行されているワークロードが中断されることはありません。

始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。[アップグレード前検証](#)を参照してください。
- 「[Download Software](#)」から既存のクラスタをアップグレードするために、最新の Cisco HX Data Platform アップグレードバンドルをダウンロードしてください。
- 「オンラインアップグレードプロセスのワークフロー」の手順 1〜6 を実行します。詳細については、[オンラインアップグレードプロセスのワークフロー](#)を参照してください。
 - Cisco UCS インフラストラクチャをアップグレードします。
 - ブートストラップを実行して、Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードします。

- ブートストラップされたストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。
- 管理者クレデンシャルで Cisco HX Data Platform プラグインにログインします。
- DRS が [Enabled] に設定されている場合、VM の他のホストへの vMotion が自動的に実行されます。



(注) DRS が [Disabled] に設定されている場合は、VM に対して手動で vMotion を実行して、アップグレードプロセスを続行します。詳細については、VMware のマニュアルで、vMotion を使用した移行の説明を参照してください。

ステップ 1 vSphere Web Client ナビゲータから、[vCenter Inventory Lists] > [Cisco HyperFlex Systems] > [Cisco HX Data Platform] > [HX-Cluster] > [Summary] を選択します。

ステップ 2 [Upgrade Cluster] を選択します。

ステップ 3 [HX Data Platform] のみを選択します。

ステップ 4 ローカル PC 上の .tgz パッケージ ファイルを選択します。

Cisco HX Data Platform アップグレード バンドルをアップロードします。これは、HX Data Platform Plug-in のアップグレードに使用されたのと同じ .tgz パッケージ ファイルです。

ステップ 5 管理者レベルの vCenter クレデンシャルを入力します。

(オプション) [詳細オプション (Advanced Options)] に MD5 [チェックサム# (Checksum#)] の情報を入力します。ファイルのチェックサムを調べるには、[Cisco.com](https://www.cisco.com) ダウンロード ページにアクセスして、ダウンロード タイトルをクリックします。これにより、md5 チェックサムが表示されます。

このオプション ステップは、アップロードされたアップグレード パッケージ バンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

ステップ 6 [Upgrade] をクリックします。

[Validation] 画面に、検査の実行の進捗が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。

アップグレードプロセスの流れは、次のとおりです。

- HyperFlex クラスタがアップグレード可能な状態であるかどうかを確認されます。
- HX ノードが 1 つずつメンテナンス モードになります。
- ハイパーバイザ上の HyperFlex vSphere インストール バンドルがアップグレードされます。
- Cisco HX Data Platform がアップグレードされます。
- HX ノードのメンテナンス モードが終了します。
- クラスタを完全に正常な状態に戻すための再構築が開始されます。

- クラスタが正常な状態になると、HyperFlex クラスタの次のノードでアップグレードプロセスが続行されます。

次のタスク

アップグレードが完了したことを確認します。詳細については、「*Post Upgrade Tasks*」を参照してください。

Cisco UCS ファームウェアのアップグレード



重要

- Cisco UCS Manager の保留中のアクティビティを手動で確認応答しないでください。
- HX Data Platform がすでにアップグレードされていることを確認してください。分割アップグレードを実行する場合は、HX Data Platform のアップグレードとほぼ同時にCisco UCS ファームウェアを確実にアップグレードします。

始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。詳細については、「[Upgrade Prerequisites](#)」を参照してください。
- 「[Download Software](#)」から既存のクラスタをアップグレードするために、最新のCisco HX Data Platform アップグレードバンドルをダウンロードしてください。
- 「オンラインアップグレードプロセスのワークフロー」の手順1〜6を実行します。詳細については、[オンラインアップグレードプロセスのワークフロー](#)を参照してください。
 - Cisco UCS インフラストラクチャをアップグレードします。
 - ブートストラップを実行して、Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードします。
 - ブートストラップされたストレージコントローラVMでスナップショットスケジュールを無効にします。
 - 管理者クレデンシャルでCisco HX Data Platform プラグインにログインします。
- DRS が [Enabled] に設定されている場合、VM の他のホストへの vMotion が自動的に実行されます。



(注) DRS が [Disabled] に設定されている場合は、VM に対して手動で vMotion を実行して、アップグレードプロセスを続行します。詳細については、VMware のマニュアルで、vMotion を使用した移行の説明を参照してください。

ステップ 1 vSphere Web Client ナビゲータから、[vCenter Inventory Lists] > [Cisco HyperFlex Systems] > [Cisco HX Data Platform] > [HX-Cluster] > [Summary] を選択します。

ステップ 2 [Upgrade Cluster] を選択します。

ステップ 3 [UCS Firmware] のみを選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 管理者レベルの UCS Manager クレデンシャルを入力します。

フィールド	Data
UCS Manager のホスト名 (UCS Manager Host Name)	例 : eng-fi12.eng.storvisor.com
[ユーザ名 (User Name)]	<admin> ユーザ名
Password	<admin> パスワード

ステップ 5 [Discover] をクリックして、現在のファームウェア パッケージ バージョンを表示します。

ステップ 6 [Target version] フィールドに最新バージョンの Cisco UCS ファームウェアを正確に入力します。

ステップ 7 [Upgrade] をクリックします。

Cisco UCS サーバが目的のファームウェア パッケージでアップグレードされました。保留中のアクティビティは、ローリング形式で自動的に確認応答されます。

(注) Cisco UCS Manager GUI で、サービス プロファイルの [FSM] タブから進捗状況をモニタできます。

[Validation] 画面に、検査の実行の進捗が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。

アップグレードプロセスの流れは、次のとおりです。

- HyperFlex クラスタがアップグレード可能な状態であるかどうかを確認されます。
- HX ノードが 1 つずつメンテナンス モードになります。
- HX Data Platform は Cisco UCS Manager にファームウェアのアップグレードを要求します。このプロセスには、最大で 1 時間かかる可能性があります。

(注) Cisco UCS Manager GUI で、サービス プロファイルの [FSM] タブから進捗状況をモニタできます。

- HX ノードのメンテナンス モードが終了します。
- クラスタを完全に正常な状態に戻すための再構築が開始されます。

- クラスタが正常な状態になると、HyperFlex クラスタの次のノードでアップグレードプロセスが続行されます。

次のタスク

アップグレードが完了したことを確認します。詳細については、「*Post Upgrade Tasks*」を参照してください。

Cisco HX Data Platform と Cisco UCS ファームウェアを組み合わせたアップグレード

コンバインドアップグレードでは、HyperFlex クラスタで実行されているワークロードが中断されることはありません。



重要 Cisco UCS Manager の保留中のアクティビティを確認しないでください。

始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。詳細については、「[Upgrade Prerequisites](#)」を参照してください。
- 「[Download Software](#)」から既存のクラスタをアップグレードするために、最新の Cisco HX Data Platform アップグレードバンドルをダウンロードしてください。
- 「オンラインアップグレードプロセスのワークフロー」の手順 1〜6 を実行します。詳細については、[オンラインアップグレードプロセスのワークフロー](#)を参照してください。
 - Cisco UCS インフラストラクチャをアップグレードします。
 - ブートストラップを実行して、Cisco HX Data Platform プラグインをアップグレードします。
 - ブートストラップされたストレージコントローラ VM でスナップショットスケジュールを無効にします。
 - 管理者クレデンシャルで Cisco HX Data Platform プラグインにログインします。
- DRS が [Enabled] に設定されている場合、VM の他のホストへの vMotion が自動的に実行されます。



(注) DRS が [Disabled] に設定されている場合は、VM に対して手動で vMotion を実行して、アップグレードプロセスを続行します。詳細については、VMware のマニュアルで、vMotion を使用した移行の説明を参照してください。

ステップ 1 vSphere Web Client ナビゲータから、[vCenter Inventory Lists] > [Cisco HyperFlex Systems] > [Cisco HX Data Platform] > [HX-Cluster] > [Summary] を選択します。

ステップ 2 [Upgrade Cluster] を選択します。

ステップ 3 [HX Data Platform] と [UCS Firmware] を選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 ローカル PC 上の .tgz パッケージファイルを選択します。

Cisco HX Data Platform アップグレードバンドルをアップロードします。これは、HX Data Platform Plug-in のアップグレードに使用されたのと同じ .tgz パッケージファイルです。

ステップ 5 管理者レベルの vCenter クレデンシャルを入力します。

(オプション) [詳細オプション (Advanced Options)] に MD5 [チェックサム# (Checksum#)] の情報を入力します。ファイルのチェックサムを調べるには、[Cisco.com](https://www.cisco.com) ダウンロード ページにアクセスして、ダウンロード タイトルをクリックします。これにより、md5 チェックサムが表示されます。

このオプション ステップは、アップロードされたアップグレード パッケージバンドルの整合性を検証するのに役立ちます。

ステップ 6 管理者レベルの UCS Manager クレデンシャルを入力します。

ステップ 7 [Discover] をクリックして、現在のファームウェア パッケージ バージョンを表示します。

ステップ 8 [Target version] フィールドに最新バージョンの Cisco UCS ファームウェアを正確に入力します。

ステップ 9 [Upgrade] をクリックします。

Cisco UCS サーバが目的のファームウェア パッケージでアップグレードされました。保留中のアクティビティは、ローリング形式で自動的に確認応答されます。

(注) Cisco UCS Manager GUI で、サービスプロファイルの [FSM] タブから進捗状況をモニタできます。

[Validation] 画面に、検査の実行の進捗が表示されます。検証エラーがある場合は修正します。

アップグレードプロセスの流れは、次のとおりです。

- HyperFlex クラスタがアップグレード可能な状態であるかどうかを確認されます。
- HX ノードが 1 つずつメンテナンス モードになります。
- ハイパーバイザ上の HyperFlex vSphere インストール バンドル (VIB) がアップグレードされます。
- Cisco HX Data Platform がアップグレードされ、続いてホスト サーバが再起動されます。
- HX Data Platform は Cisco UCS Manager にファームウェアのアップグレードを要求します。このプロセスには、最大で 1 時間かかる可能性があります。

- HX ノードのメンテナンス モードが終了します。
- クラスタを完全に正常な状態に戻すための再構築が開始されます。
- クラスタが正常な状態になると、HyperFlex クラスタの次のノードでアップグレードプロセスが続行されます。

次のタスク

アップグレードが完了したことを確認します。詳細については、「*Post Upgrade Tasks*」を参照してください。

ESXi のアップグレード



注意 VMware Update Manager (VUM) を使用して ESXi をアップグレードすることはお勧めしません。

VUM を使用して ESXi をアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

- 一度に 1 ホストずつ VUM を使用してください。
- 次のノードに移動する前に、クラスタが正常な状態であることを確認してください。
- VUM が次のノードに移るまでにクラスタが正常に動作することは保証されないため、VUM を使用してクラスタ全体で ESXi をアップグレードしないでください。

ESXi ハイパーバイザのバージョンは HyperFlex のクラスタ ワークロードを中断することなくアップグレードできます。これは、HX クラスタ内の各ノードのオンラインローリングアップグレードを実行することで実現できます。



- 重要**
- ESXi のアップグレードでは、手動でオンラインアップグレードを実行する必要があります。
 - VMware ESXi を 5.5 U3b から、6.0 U2 までの任意のバージョンへアップグレードする場合は、Cisco TAC までお問い合わせください。
 - ESXi コマンドライン インターフェイス `esxcli` を使用して、ESXi のアップグレードまたはアップデートを実行します。
 - 以下に例示されているビルド番号を最新バージョンに置き換えます。

始める前に

- アップグレード前の検証チェックを完了します。第3章の「アップグレードの前提条件」を参照してください。
- ホスト上でESXiのアップグレードを開始する前に、vCenterを互換性のあるバージョンにアップグレードしてください。

ステップ 1 ESXi アップグレード パッケージをダウンロードします。ESXi を 6.0 Ux から新しいバージョンにアップグレードする場合は、「[Download Software](#)」から入手できるオンライン zip ファイルを使用します。

ファイル名の例：HX-Vmware-ESXi-60U2-4192238-Cisco-Custom-Bundle-6.0.2.3.zip

注目 HX ISO ファイルまたは他の VMware ISO を使用して ESXi のアップグレードを試みないでください。

ステップ 2 いずれかのホストを選択し、vSphere Web クライアントを使用して HX メンテナンス モードにします（[Cisco HyperFlex のメンテナンス モードの開始](#)を参照してください）。ホストがメンテナンス モードになったら、次の手順を実行します。

ステップ 3 十分な領域がある適切なフォルダに ESXi アップグレード バンドルをリモート セキュア コピーします。SCP を使用してファイルをコピーするには、さらに、宛先 ESXi ホストの SSH サービスを開始します。

- (注)
- HX240 では、ローカルの SpringpathDS データストアまたはマウントされた HX データストアを使用できます。
 - HX220 では、マウントされた HX データストアを使用するか、一時的な RAM ディスクを作成することができます。

```
scp local_filename user@server:/path/where/file/should/go
```

ステップ 4 ESXi にログインし、次のコマンドを実行して使用可能なイメージプロファイルの一覧を照会し、プロファイル名を確認します。

```
esxcli software sources profile list -d <location_of_the_esxi_zip_bundle_on_the_datastore>
```

注目 esxcli ソフトウェア コマンドを使用する際はフルパスを使用する必要があります。

例：

```
[root@HX-ESXi-01:/vmfs/volumes/1a234567-89bc1234] esxcli software profile update -d /vmfs/volumes/1a234567-89bc1234/HX-Vmware-ESXi-650-5224529-Cisco-Custom-6.5.0.3-Bundle.zip -p Vmware-ESXi-6.5.0-HX-5224529-Custom-Cisco-6.5.0.3
```

Name	Vendor	Acceptance Level
Vmware-ESXi-60U2-4192238-Cisco-Custom-HX	Cisco	PartnerSupported

ステップ 5 次のコマンドを実行して、アップグレードを実行します。

```
esxcli software profile update -d <path_to_profile_ZIP_file> -p <profile name>
```

例：

コンピューティング専用ノードのアップグレードに関する考慮事項

```
[root@HX-ESXi-01:/vmfs/volumes/1a234567-89bc1234] esxcli software profile update -d
/vmfs/volumes/1a234567-89bc1234/HX-Vmware-ESXi-60U2-4192238-Cisco-Custom-Bundle-6.0.2.3.zip -p
Vmware-ESXi-60U2-4192238-Cisco-Custom-HX
```

- ステップ 6** アップグレードが完了したら、コマンド *reboot* を実行して ESXi ホストを再起動します。
- ステップ 7** ESXi ホストが起動したら、ホストが適切なバージョンで起動したことを確認します。
- ```
vmware -v1
```
- ステップ 8** ESXi ホストが自動的に vCenter に再接続するまで待ちます。アップグレードのシナリオによっては、vCenter から ESXi を再接続させる必要があります。ホストを右クリックし、**[Connection] > [Connect]** を選択します。
- ステップ 9** vSphere Web クライアントを使用して、メンテナンス モードを終了します ([Cisco HyperFlex のメンテナンス モードの終了](#)を参照してください)。
- ステップ 10** 次の ESXi のアップグレードに進む前に、クラスタが正常な状態になっていることを確認します。
- ```
stcli cluster storage-summary --detail
```
- ステップ 11** クラスタ内のすべてのホストに対してこのプロセスを順に繰り返します。
- (注) ESXi をアップグレードするごとに、クラスタが正常な状態になっていることを確認してから、次の ESXi のアップグレードに進んでください。

コンピューティング専用ノードのアップグレードに関する考慮事項

コンピューティング専用 ノードのバージョン 2.2(7c) から 3.1(2b) へのアップグレード

dコンピューティング専用ノードのアップグレード展開を、オンライン モードまたはオフライン モードで行うことができます。コンピューティング専用ノードを 2.2(7c)/1.7x から 3.1(2b)/1.8(1a) にアップグレードする場合は、[オンラインアップグレードプロセスのワークフロー](#)で説明されているように、中断のないオンライン ローリング アップグレード手順に従います。オンラインアップグレード ワークフローにより、フルアップグレードの一環としてコンピューティング専用ノードファームウェアと HX Data Platform コンポーネントの両方が自動的にアップグレードされます。

オフラインアップグレードについては「[オフラインアップグレードプロセスのワークフロー](#)」を参照してください。

コンピューティング専用ノード上の Cisco UCS ファームウェアをバージョン 2.2(6f) から 3.1(2b) にアップグレードする

コンピューティング専用ノードを 2.2(6f)/1.7x から 3.1(2b)/1.8(1c) にアップグレードする場合は、新しい HX Data Platform アップグレード ワークフローによって HX Data Platform コンポーネントが自動的にアップグレードされます。

ただし、HX Data Platform アップグレードが完了した後、コンピューティング専用ノードサーバファームウェアのアップグレードを手動で完了する必要があります。

-
- ステップ 1** 分散リソース スケジューラ (DRS) が有効で、自動モードに設定されていることを確認してください。
- これにより HX ノードを自動的に使用不可にすることができます。あるいは、vMotion を使用してすべての VM を手動でホストから切り離して移行します。vMotion で移行すると、仮想マシンの可用性を中断させることなく、新しいホストに仮想マシンを移動することができます。詳細な手順については、[VMwareKB の記事](#)を参照してください。
- ステップ 2** それぞれのコンピューティング専用ノードをメンテナンス モードにします。
- ステップ 3** UCS Manager GUI で [Servers] > [Service Profiles] に移動し、[Pending Activities] をクリックすると、完了前にユーザ確認応答を必要とするタスクが表示されます。コンピューティング専用サーバごとに保留中のレポートを手動で [Acknowledge] (確認応答) して受け入れます。これによりレポートがトリガーされて、新しいバージョンの UCS ファームウェアがインストールされます。
- ステップ 4** コンピューティング専用ノードのアップグレードが完了して完全にリブートするまで待ちます。コンピューティング専用ノードが起動したら、UCS Manager で正しい UCS ファームウェアが存在することを確認します。[UCSM のファームウェア バージョンの確認](#)を参照してください。
- ステップ 5** クラスタ内のすべてのコンピューティング専用ノードに対してこの手順を繰り返します。
-

■ コンピューティング専用ノード上の Cisco UCS ファームウェアをバージョン 2.2(6f) から 3.1(2b) にアップグレードする